

# Desert Wind (No. 14)

Las Vegas Japanese Community Church

JANUARY 2007

『わたしは荒野に道を設け、さばくに川を流れさせる』(イザヤ 43:19)

編集：平山未樹

『互いに愛し合う教会』(ヨハネ13:34-35)

LVJCC 牧師：鶴田健次

私たちの教会にも、病気の方々が何人もおられます。そういう中で、イエス・キリストを信じる人々が絶えずその方々を助け、励まし、互いに愛し合う姿を見ることは実に美しいものです。誰にとっても、明日は我が身です。しかし、そんな現実の中で、私たちが安心していられるのは、必要があれば、出来る限りの犠牲を払って助けてくれる神の家族がいるからであり、またさらに、こうして私たちの中に働きかけて、互いに愛し合うことをさせて下さるイエス様がおられるからです。今回は、互いに愛し合うということについて考えてみます。

まず第一に、互いに愛し合うことは、イエス様の戒めです。つまり「できればそうした方がよい」というのではなく、「そうしなさい」という命令なのです。イエス様は弟子たちに対して、まず「あなたがたは互いに愛し合いなさい」と教えられました。神様がおられるところには愛があります。神様は信じる私たちの内に宿って下さり、また神様の愛が私たちの心に宿ります。ですから、もし本物の愛がその人の中にあるなら、神様もその人の中におられるということです。だから人々は、おのずと互いに愛し合うようになるのです。時どき、クリスチャンの中に、人のことを、『あの人には愛がない』と言う人がいますが、そういう人は本当の愛を知らない人で

す。なぜなら、そういう人が考えている愛は自己中心的な『奪う愛』だからです。『奪う愛』で愛を得ようとしている人は、自分の期待どおりに人がしてくれなかったら、あの人には愛がないと言って不満を言います。しかし、クリスチャンの愛は『与える愛』でなければなりません。

第二に、互いに愛し合うのは、イエス様が私達を愛して下さったことがその原点です。ですから、イエス様に愛されていることを心に留め、その事実を他の人々と「共有する」ことが大切です。イエス様に愛され、イエス様を愛することを他者と「共有する」ことによって、イエス様を共に愛し、イエス様に共に愛され、そこに互いに愛し合う根拠が生まれます。ヨハネは、その手紙の中で、「主は、わたしたちのために命を捨てて下さった。それによって、わたしたちは愛ということを知った。」と言いました。私達は、命を捨ててまで私達を愛して下さったイエス様の愛を知るときに、私達もイエス様を愛さずにはいられなくなります。また、その同じイエス様の愛がこの人にも向けられているというところに、私がこの人を愛していく原点があるのです。

第三に、互いに愛し合うのは、この世の人々が主を認めるためです。35節で、イエス様は、「互いに愛し合うならば、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての者が認める」と言われました。つまり、この世の人々は、クリスチャンである私たちの愛し合う姿

に神様を見るのです。この世の愛は、自己中心の愛です。人を愛するの、自分を喜ばせることが目的である場合がしばしばです。その証拠に、自分を喜ばせなくなると、もうその人を愛さなくなります。それが、生まれつきの人間が持っている利己的な愛の姿です。そして、そこには平安がありません。

クリスチャンの愛は、自分のものを与える愛、ありのままを受け入れる愛、どんな人をも赦す愛です。ですから、そういう愛で、クリスチャンたちが互いに愛し合うならば、それを周りで見ている神様を知らない人たちが、その美しい姿を見て、「あの人たちはイエス・キリストを信じる人たちだからあのように愛し合っているんだ。私もあの人たちの仲間になりたい。」と思うようになるのだということです。この世の人々は無条件に愛され、ありのままの自分を受け入れてもらえる場所を探しています。教会とは、本来そういう所であればなりません。そんな教会を作りましょう。



証し

細田則子

聞いた時、あまりの感激で鳥肌がたち、又涙が止まりませんでした。

私は長い間、創価学会員で、御本尊を拝むという偶像礼拝をしてきましたが、安定した心の平安など経験したことがなく、いつも題目が足りないからと自分を責めていました。仏教は基本的に自分の行いによって浄土に行けるかどうかの間われ、題目闘争、断食、瞑想、行脚などありとあらゆる事に挑戦しますが、それこそこの世を捨てて、寺の坊主にでもならなければ、ある程度の救われた気持ちにはなれないと思います。ところがキリスト教は、イエス様を信ずるといふ信仰告白さえすれば、私達は救われ、神の家族として迎えられ、永遠の命をいただけるのです。神様が100%やってくれるのです。なんという恵みでしょうか。このことを考えれば、何か神様のために私ができることはないだろうか、と思うのが当然だと思います。

考えてみれば、ここにはお寺が無いからという理由で、恐る恐る2006年の10月15日にこのラスベガスの教会に足を踏み入れ、そこでマウイ島時代の友達のかよ子姉妹と再会しました。どんなに年を取っていても、新しい場所に入っていく事は心細いものですが、昔の友がそこに居た事は、私に大きな安心と勇気をくれました。神様の御業とはすごいものですね。神様の方から私を選んでくれて、寂しくない様にと旧友を置いてくださり、救いの道へ導いて下さいました。

初心者クラスを取り、初めて神様には、愛と義と聖の御性格があること、そして最初に造られた人間、アダムとイブから罪が入ってしまい、私達は誰でもこの罪を背負って生まれてきていること、その罪のため、完全に聖い神様は私達を受け入れようにも受け入れられない状態になってしまったこと、しかし神様は私達を見捨てず、御自分の御子を私達の身代わりの生贄として、その血をもって、私達全人類を救うという手段を取ってくれたことを学びました。私は、この仕組みを

私達は、ただただイエス様を信じるということだけでこの神様の素晴らしい恵みに預かれるということですから、何の代価も払わず、ただで永遠の命をいただけるということです。何と素晴らしいプレゼントでしょうか！！

2007年9月から、幸いにも牧会者養成コースに入る事が出来まして、少しずつ旧約聖書が解るようになり、イエス様がどうして人間にならなければならず、又、血を流さなければならなかったかが解ってきました。旧約時代のイスラエルの人々は、聖い神様に、罪の贖いのため、汚れを清めるために、傷のない動物を犠牲として奉げることが命じられており、そのために奉げられる動物の数は凄いな数でした。またそれは、やがて来る永遠の贖いのための犠牲であるキリストを予表するものであることを知りました。また十戒を基に613もの細かい律法が与えられ(神様はこれを人間が守れないことを知っておられた)、それがやがて人間に罪を認めさせる助けとなり、罪を贖うキリストのもとへと足を運ばせる導きとなったことを学びました。そして、時が満ちて、旧約聖書の預言通り、神の御子が、救い主として、罪の無い人間のかたちをとって天から来て下さいました。そして、私達の罪のために十字架で血を流し、私達を救って下さったのです。私は、この神様の御業を、心から感謝し、神様の栄光を全身全霊をもって称え、賛美、礼拝する者でありたいと思います。

私は今、とにかく神様に喜んでもらえる自分になりたいと思っています。そのためにはまず御言葉を学び、それを実践できるように、また、いつも聖霊様に満たされるように祈り求めながら、神様との生きた交わりの中にとどまり続けたいと思っています。アーメン

## 案内・ニュース

- ・ 2008 年度の御言葉として主から与えられた御言葉はヨハネ 13:34 です。この御言葉をもとに『互いに愛し合う教会』という教会標語が与えられました。
- ・ 7 月からの教会年度のちょうど半分が過ぎましたが、すでに 10 名の受洗者が与えられました。こうして主が絶えず救われる魂を送って下さることを感謝します。
- ・ 1 月 6 日(日)の新年礼拝後に好例の新年会が持たれます。ご馳走をいただきながら、各自に与えられた一年の御言葉を分かち合い、賛美やゲームや隠し芸(?)を楽しみます。
- ・ 1 月 27 日(日)の礼拝はハワイから鈴木栄一先生をお招きして聖書のメッセージを取り継いでいただきます。
- ・ 2 月 12 日(火)に大和カルバリーチャペル(日本一大きな教会)の大川従道先生をお迎えし特別集会を持つ予定です。ご期待ください。

## DREAMS COME TRUE

- ✦ 教会堂の建設
- ✦ 敬老ホームの設立
- ✦ 幼稚園の設立

